

宗教と文学 Religion and Literature

1. 担当教員

名前： 矢口洋生

2. 授業の目的

(1) 授業の目的

宗教と文学を考えることは、宗教と文化の関係という大問題を考えることでもある。宗教は文化によって人間の心に届けられるからである。まさにこの文化との格闘こそが、あらゆる宗教にとっての最も繊細かつ複雑な問いとなる。信仰を意識した作家たちを取り上げながら、この難問を深く考察することがこの授業の目的となる。

(2) 到達目標

- ① 作品を読んであじわう。
- ② 作品を深く考える
- ③ 作品について考えたことを言語化して表現する

(3) ディプロマポリシー

人間学部 DP(1)(2)(3)のすべてに関わる内容となっている。

3. 授業の概要

この講義における「宗教」はキリスト教に限定します（ときおり仏教やユダヤ教にも言及しますが）。宗教と文学を考えることは、宗教と文化の関係という大問題を考えることでもあります。宗教は文化を通して人間の心に届けられるからです。そして文化との関わりこそ、あらゆる宗教にとって最も繊細かつ複雑な問いを提起するものなのです。信仰を意識した作家たちの作品を読みながら、この難問を考えていきます。

4. 授業計画

回	テーマ・内容	予習・復習	備考
1	オリエンテーション…授業の進め方		
2	旧約聖書と文学	旧約指定箇所	
3	新約聖書と文学	新約指定箇所	
4	『沈黙』の世界	『沈黙』	
5	『沈黙』の世界	『沈黙』	
6	『沈黙』の世界	『沈黙』	
7	『沈黙』の世界	『沈黙』	
8	『クリスマスキャロル』	『クリスマスキャロル』	
9	『クリスマスキャロル』	『クリスマスキャロル』	
10	『クリスマスキャロル』	『クリスマスキャロル』	
11	『氷点』があらわすもの	『氷点』	
12	『氷点』があらわすもの	『氷点』	
13	『氷点』があらわすもの	『氷点』	
14	詩と信仰	プリント	
15	詩と信仰	プリント	
	予備日		

※ 授業の展開によっては、変更の可能性があります。変更の場合には随時お知らせします。

5. 評価方法

- (1) レポート（80%）…授業内で詳細を説明する
- (2) 受講態度（20%）…授業への積極的参加、出席等を勘案する

6. 履修上の注意

- (1) 前提科目や履修条件： 特になし。
- (2) 資格要件に関する情報： 特になし。
- (3) 特別な配慮を要する学生に対する扱い： 個別対応します。